

月刊 やちまなこ

2026. 7.15 発行

No.344

7月号

釧路湿原国立公園 塘路湖エコミュージアムセンター（あるこっと）だより



ツバメの巣立ち [*Hirundo rustica*]

夏の釧路湿原では、多くの野鳥が子育てに勤しむ。タンチョウの育雛のほか、ヒタキやカラ類の親鳥たちが、餌で雛の巣立ちを促している姿が、今年は多く見掛けられた。

センターの軒下には、昨年、育雛に失敗したツバメが、無事に子育てを終えそう。ある暑い日、ずっと巣から上半身しか見せていなかった幼鳥がセンターの玄関に降りてきた。片方の親鳥は天敵を警戒し見張りをし、もう片方の親鳥が空を舞い、虫を啄んで幼鳥たちに与えては、また忙しく狩りに出て行った。今年は4羽が無事に巣立ってくれそうです。



塘路フィールドノート【6/15～7/14】

【野鳥】

野鳥観察会ではムシクイの声が主役の季節なのだが、今年はカッコウやツツドリの声が多かった。市民調査のオオジシギは気にしているせいか、結果的には多かったような気がした。クマガエラは増加傾向？！



タンチョウ (釧路湿原)

1月号表紙の番いが今年も子育中。無事に大きく成長して欲しいものです。ツル科



オオアカゲラ (塘路湖畔)

クマガエラに追いやられているのか、あまり見掛けなくなった気がする？！キツツキ科



センダイムシクイ (コッタロ湿原)

初夏の森で「チヨチヨビー」と囀る。頭部に灰色の頭中線がある。ムシクイ科



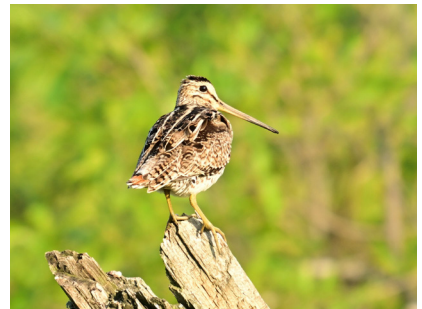
コヨシキリ (クチョロ線)

例年よりちょっと遅めの渡来。数はまあまあ多かったように思います。ヨシキリ科



カッコウ (クチョロ線)

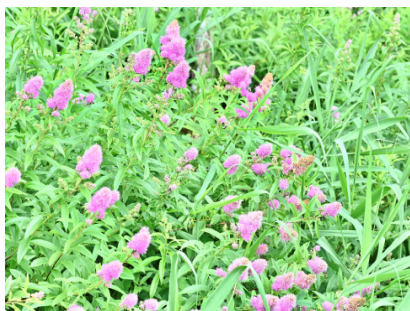
コヨシキリとほぼ同時期に個体数が増す。托卵の対象もコヨシキリほか。カッコウ科



オオジシギ (釧路湿原)

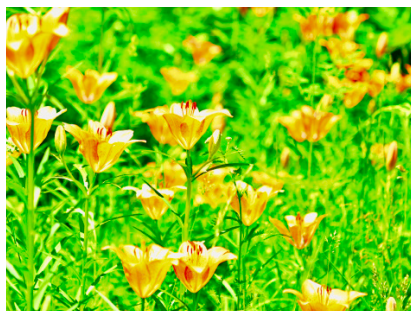
今年は市民調査の対象となっている野鳥。オーストラリアから渡ってくる。シギ科

【植物】 夏の花の季節が始まったかと思えば、あっという間に見頃を終えてしまう塘路周辺の花たち。高層湿原にはトキソウの花が確認されて安心をしましたが、一番綺麗な時期を逃してしまいました。



ホザキシモツケ（穂咲下野）

夏の湿原を代表する花。多くの昆虫の食草ともなる。花言葉「真の愛・友情」バラ科



エゾスカシユリ（蝦夷透百合）

「透」は花びらの間にすき間があることが名前の由来。花言葉は「飾らぬ美」ユリ科



トキソウ（朱鷺草）

高層湿原にひっそりと咲く、朱鷺の名を冠した花。花言葉は「上品・優雅」ラン科



エゾナミキソウ（蝦夷波来草）

海岸に多いナミキソウが湿原に適応した種。花言葉は「心のやすらぎ・平穏」シソ科



コヒルガオ（小屋顔）

淡いピンク色の花は朝に開き夕方にはしぼむ一日花。花言葉「優しい愛情・絆」ヒルガオ科

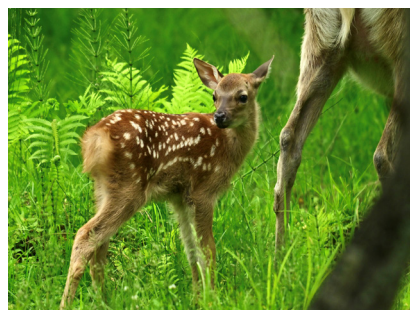


ヤチボウズ（谷地坊主）

美しく見える季節。カブスゲなどのスゲ株の分けつ作用と、湿原の凍上が作り出す現象。

【哺乳類・昆虫】

塘路周辺は今年生まれの小鹿は少ない印象だが、年々エゾシカと車の接触事故は増えているのだそう。昆虫はエゾハルゼミは例年通りでしたが、昨年、ほとんど鳴かなかったコエゾゼミの今季の出現状況が気になる。



エゾシカ（クチャロ線）

今年生まれたエゾシカの子供。お母さん鹿に置いて行かれないよう必至について行く。シカ科



トノサマバッタ（塘路湖畔）

年々増加傾向。この個体は幼虫で7月中旬にもう一度脱皮して成虫となる。バッタ科



オオシマゲンゴロウ♀（塘路原野）

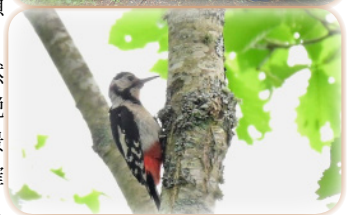
北海道と青森の一部にしかいない北方系ゲンゴロウ。♂には背中縦縞がない。ゲンゴロウ科

◎夏のシラルトロ湖にて、野鳥観察会を行いました

6月27日は、夏のシラルトロ湖で野鳥観察会を開催しました。雨の中でのスタートでしたが、湿原ではコヨシキリのさえずりやカッコウ科の飛翔、高台では対岸の水辺に集まるカモ類を観察しました。途中ではオオジシギの滑空も見ることができ、講師からは北海道で繁殖しオーストラリアまでいっきに渡る生態など、興味深い解説がありました。また、アカゲラの古い巣穴を観察し、巣穴を再利用する野鳥や動物の話にも耳を傾けました。

けたたましく鳴くアカゲラを探している時には、テンが雛を捕らえる場面に遭遇。自然界の厳しさを目の当たりにしましたが、講師から「テンにも育てる子どもがいる」と説明を受け、生きもの同士のつながりについて学びました。展望台ではシラルトロ湖の景観を楽しみながら縄文海進の歴史やイサザアミを観察し、遠くダイサギの群れを皆で確認しました。最後は野鳥チェックリストの答え合わせを行い観察会を締めくくりました。

野鳥確認種数 20種 参加者 11名



観察風景とアカゲラ

◎縄文時代の土器作りを体験しました

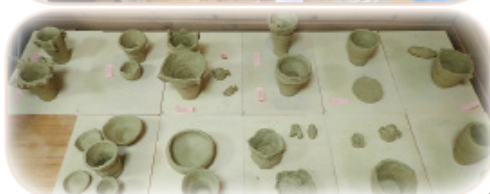
7月4日は標茶町立博物館との共催行事として、縄文土器を作るイベントを開催しました。冒頭では、標茶町の遺跡から発掘された土器や石斧、黒曜石製の矢尻などを観察し、それらがどのように製作・加工されていたのかについて講義を受けました。

その後、土器づくりを開始しました。まず粘土で土器の底を作り、続いて縄文時代や擦文時代に用いられた「輪積み」という手法で、ひも状の粘土を積み重ねながら形を整えました。この際、野焼きで割れないよう、内部に空気が残らないよう注意して作業を進めました。

午後は文様付けを行いました。講師の実演で、植物の茎や貝殻を使った文様の付け方を学んだ後、各自が思いの文様を土器に施しました。試行錯誤を重ねながら作業を進め、それぞれ納得のいく作品に仕上げました。

完成した土器は今後乾燥させ、8月に予定されている野焼きを経て完成します。

参加者 14名



8月の自然ふれあい行事

事前の申込が必要です。

森林について学ぼう

[日 時] 8月29日(土) 10時～12時

[定 員・参加料] 15名 無料

[開催場所] サルボ・サルルン展望台周辺

(集合場所はサルボ展望台 駐車場)

◎申込・問い合わせは塘路湖エコミュージアムセンターまで

夏休み！植物をじっくり見てみよう

[日 時] 8月2日(日) 10時～12時

[定 員・参加料] 15名 無料

[開催場所] 温根内ビジターセンター

◎申込・問い合わせは温根内ビジターセンター

(0154-65-2323) まで

◆日出・日入時間 7/15(3:55,19:02). 7/31(4:10,18:48). 8/14(4:26,18:29)

～指導員のひとり言～

■最近、「ネイチャーポジティブ」という言葉を耳にする機会が増えました。これは、自然を守るだけでなく、失われた自然を回復させ、より豊かな環境を未来へつないでいこうという考え方です。

私たちの身近にある釧路湿原も、多くの生きものを育むかけがえのない自然です。季節ごとに姿を変える植物や、鳥たちのさえずり、水辺を行き交う昆虫たちに目を向けると、新しい発見があるかもしれません。

自然を知り、その魅力を感じることも、ネイチャーポジティブにつながる大切な一歩。まずは釧路湿原の豊かな自然を楽しむことから始めてみませんか。

釧路湿原国立公園

塘路湖エコミュージアムセンター あること

☎ 088-2264 北海道川上郡標茶町塘路原野

TEL: 015-487-3003 FAX: 015-487-3004

E-mail: emc@kushiro-shitsugen-np.jp

Instagram  torokoemc

開館時間: 10:00～17:00

(11～3月: 16:00まで)

休館日: 毎週水曜日 12月29日～1月3日

入館無料